

関西支部・関西地域勉強会の活動

2013年5月13日(月)

特定非営利活動法人 事業継続推進機構(BCAO)
関西支部・関西地域勉強会

※ 本資料の文責は地域勉強会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

2012年度活動概要

1. 勉強会名 : 関西地域勉強会
2. 座長名 : 川口 均氏
3. 副座長名 : 大舘 伸行氏、日下 太一氏、萩原 正五郎氏、
: 福島 猛氏、柳父 行二氏、藤村 雅彦氏
4. 現在の参加人数: 59名(2012年7月18日現在)、64名(2013年2月28日現在)
5. 本年度の活動内容: 支部会合、勉強会、意見交換会、講演会、役員会、ワーキンググループ会合
→支部会合は、毎月の勉強会、意見交換会、講演会と同時開催
→役員会は毎月支部事務所にて開催
→3ワーキンググループ会合は、月一回をベースに実施
6. 3ワーキンググループは自主的に運営されており、2012年6月よりスタートした。
(2013年3月月までの会合回数)
 - ・事業継続戦略構築とビジネスインパクト分析WG: 8回
 - ・エネルギーWG : 9回(見学会1回at USJ)
 - ・教育・訓練WG : 9回
7. 現地調査: 阪神・淡路大震災被災地 淡路島復興調査・視察/2013年3月9日(土)
目的: 阪神・淡路大震災被災18年後の被災地の復興状況の確認・調査
南海トラフ巨大地震に対する防災体制の確認・調査

※ 本資料の文責は地域勉強会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

2012年度活動総括

- ◆ 今年度末の達成目標
支部組織の活性化⇒ 年12回の勉強会講師に事欠かなくなった。
- ◆ 事務所使用回数 3.75回/月（他に懇親会9回）

主な活動	支部活動回数	事務所使用回数	対象
支部会合	12		支部会員
勉強会	12		支部会員
支部役員会	10	10	支部会員
ワーキンググループ会合	27	26	WGメンバー
本部運営会議	9	9	役員・幹事
合計	70	45	
〈ワーキンググループ会合内訳〉			
事業継続戦略の決定とBIA分析	8	8	WGメンバー
エネルギー	10	9	WGメンバー
教育・訓練	9	9	WGメンバー

勉強会・意見交換会

#	演目	講演者
4月	BIAについて	田中 実氏（グリコハム株式会社）
5月	BCMの有効性について	小友 修氏（株式会社富士通エフサス）
6月	中小企業支援から見た小さな復興支援	大森 啓司氏（中小企業診断士）
7月	全員参加のBCM意見交換会	川口 均（名古屋工業大学大学院）
8月	BIAとは？ BIAワークショップ	細坪BCAO事務局長： CM-EEC理事長、NPO法人危機管理対策機構事務局長
9月	世界の津波と津波防災対策～何としても生き残れ～	日下 太一（住友電気工業株式会社）
10月	某レンタルサーバ大規模障害の事例から IT-BCPを考える	岡ITBO座長（ソフトバンク）
11月	普及セミナーの理解を深める	丸谷 浩明氏、伊藤毅氏、指田 朝久（BCAO副理事長）
12月	サプライチェーンに関して & 忘年会	久保田 貴之（大和ハウス工業株式会社）
1月	自治体向け研修の模擬体験	紅谷 昇平氏（財団法人と防災センター）
2月	ビジネスインパクト分析(BIA) 第二回ワークショップ	細坪BCAO事務局長： CM-EEC理事長、NPO法人危機管理対策機構事務局長
3月	丸谷副理事長との意見交換 Working Groupの活動報告	丸谷BCAO副理事長、3名WGリーダー

※ 本資料の文責は地域勉強会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

淡路島震災復興現地調査

目的：阪神・淡路大震災被災18年後の被災地の復興状況の確認・調査
南海トラフ巨大地震に対する防災体制の確認・調査
以上を踏まえ、今後のBCAO活動に生かす。

日時：2013年3月9日（土） 注：参加者は自費参加

見学先：○野島断層保存館 語り部から被災時の状況や復興状況をヒアリング

○淡路島西部 震災復興整備地区視察

○福良港津波防災ステーション 見学と施設担当者からのヒアリング

合わせて、南あわじの避難地、避難ビルの調査・視察

（淡路島南部で南海トラフ巨大地震発生時には相当の被害が想定される地域）

視察報告書作成目的：

阪神・淡路大震災被災18年後の被災地の復興状況の確認・調査及び南海トラフ巨大地震に対する防災体制の確認・調査を行い、今後のBCAO活動に生かす。参加者はグループに分かれ、3か所（野島断層保存館、富島地区震災復興区画整備地区、福良港津波防災ステーション）の調査・視察報告を分担しレポートにまとめ、支部会合及び本部に報告し、同時にBCAOニュースレターへの投稿を目指すものである。

その約一月後の4月13日「淡路島地震」(M6.3)が起きた。

出典：<http://www.iza.ne.jp/news/newsarticle/event/disaster/651583/>

特に淡路島では、阪神・淡路大震災(M7.3)で大きな被害を受けた淡路市（旧北淡町）富島（としま）地区は被害がなかった。洲本市と対照的だったのが淡路市で建物の一部損壊は1488にとどまった。もっとも淡路市は阪神大震災では7000近い建物が全半壊となっており、復興の過程で耐震性が高まった。その象徴とされるのが「瓦1枚落ちなかった」という同市北部の富島地区だ。国の南海トラフ地震対策の取りまとめ役を務めている河田恵昭・関西大教授は、「今後、内陸地震が続く中で家屋の耐震性が低下したり、耐震化が進まない状況が続くと、「その後に来る南海トラフの巨大地震での被害拡大を助長する」とした。実際、今回の地震では犠牲者を伴う建物倒壊はみられなかったが、震度5弱だった洲本市内の一部損壊は3402（4月24日現在）で、阪神大震災の際の4989に迫る勢いである。

※ 本資料の文責は地域勉強会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

2012年度 Working Group活動報告

ワーキンググループは、BCAO関西支部メンバーの自主性による運営されています。
以下の3つの現在活動を行っております。

◆ BCAO関西支部事業継続戦略の決定とビジネスインパクト分析 (略称B&B) 主査：田中 実氏

内容：事例設定に基づき事業継続戦略 策定のプロセスを自ら体験する。同じく、ビジネスインパクト分析についても、上記策定プロセス上の 位置づけを明確にして実体験する。

具体的取り組み：

- ① 事例企業を設定して事業継続戦略策定プロセスのイメージを全員で構築する。
- ② 事例企業を設定してビジネスインパクト分析のイメージを全員で構築する。
- ③ リスクアセスメントとBIAの関係を全員で整理する。

◆ BCAO関西支部エネルギーWG 主査：日下 太一氏

問題意識：①BC上電力不足（計画停電等）にどう対応するか？

②日本のエネルギーをどう確保するのか？

③今後のエネルギー対策は？

活動方針：エネルギー情勢や対策につき率直に意見交換する。

◆ BCAO関西支部教育・訓練WG 主査：鷺山 能雄氏

WGが目指したもの：

「教育」⇒Web教育（10分以内）、集合教育（30分程度）、専門教育（90分程度）など定期的に終業後等実施できる手軽な教育の実現を目指す】

「訓練」⇒大がかりなものではなく、1～2時間で一つの目的が達せられるような簡潔な訓練を定期的に実施できるようにする）

2013年度BCAO関西地域勉強会の役割分担

◆目 標：更なる組織の活性化

◆重点項目：南海トラフ巨大地震に備える
：BCMの新しい動向を吸収する

◆支部役員（幹事4名）の増員

（理由）BCAOの活動は、仕事の合間をぬってのボランティア活動であるため、繁忙期には活動が停滞する可能性がある。そこで、常にスムーズに活動が継続できる「大勢で少しずつ神輿を担ぐ体制」、
「次世代へのスムーズなバトンタッチを行える体制」とした。
座長が退任した場合、副座長がこれに代わり、副座長が退任した場合、幹事がこれに代わる。

◆役割 副座長は次世代の座長候補。座長が活動できない場合、その代役を務める。主として、全体方針の立案と実行に努める。
幹事は次世代の副座長候補。主として、専門職的に個別テーマの推進に努める。リーダーは組織運営のサポーター。

※ 本資料の文責は地域勉強会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

2013年度活動の予定

◆具体的活動

月例勉強会（第3水曜日）

	回
ゲスト招待講演	2
理事長・副理事長の招聘	2
会員会社訪問での勉強会	2
WG活動報告（3月）	1
支部会員の発表	4
合計	11

支部会合（第3水曜日）

	回
月例勉強会と同時開催	12
現地調査	
宿泊（9月 気仙沼）	1
日帰り（2月頃 募集中）	1
合計	2

支部役員会（第1水曜日）

	回
支部事務所にて会合	10

ワーキンググループ（自主性による）

- ・事業継続戦略構築とビジネスインパクト分析
- ・エネルギー
- ・教育・訓練

年間予算

	千円
ゲスト交通費（2回分）	60
コピー代・部屋代・謝礼等	40
合計	100

2013年度活動の予定（現地調査活動）

東日本大震災・東北訪問企画
東北訪問世話人会（大館・田中・日下）

目的：東日本大震災の被災地現地確認・調査など
→被災・復興状況や現在の課題等を知るため、関係者より現地でお話を伺います。
→気仙沼復興商店街などでは食事や買い物をして、少しでも復興を応援を行います。

日程：2013年9月21日(土)～9月23日(月)

集合時間：9月21日(土) 10:00

集合場所：仙台空港ターミナルビル1階 国内線到着ロビー

解散時間：9月23日(月) 16:00

解散場所：仙台空港ターミナルビル1階

行程：1日目：仙台空港→石巻市→女川町→南三陸町→気仙沼市泊

2日目：気仙沼市→陸前高田市→気仙沼市泊

3日目：気仙沼市→仙台空港

主な訪問先：※今後の復旧・復興状況などにより変更の可能性があります。

石巻市：門脇小学校、大川小学校

女川町：地域医療センター、横倒しビル

南三陸町：防災対策庁舎

気仙沼市：復興商店街・南町紫市場、むらさき会館、第十八共徳丸、旧南気仙沼駅前

陸前高田市：市役所（跡地）、高田の松原（奇跡の一本松）、みんなの家

注：参加者は自費参加

ありがとうございました。

特定非営利活動法人
事業継続推進機構
関西支部・関西地域勉強会

A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)